

<英語語法マスター③> 動詞の語法③

1 使役動詞の語法パターン (make · have · let · help)

< make O C の C の3パターン >

① make O (): 「 He made her ^形 angry. 「彼は彼女を怒らせた」

② make O (): 「 (英文法超基礎④)
= (/ /) O ()

☆受動態では () になる!

○ He was made to pay his debts. 「彼は借金を返させられた」

× He was made pay his debts.

= He was forced / compelled / obliged to pay his debts.

③ make O (): 「 → 次の3つを覚える!
→ (): 「
(): 「
(): 「

< have O C の C の3パターン >

① have O (): 「 ← 義務的なイメージ
= (/) O () 使役 受身・被害 完了

② have O (): 「
= () O ()

③ have O (): 「

< let O C の3パターン >

① let O (): 「 ← 「本人の望み通りに」
= (/) O () ← 受動態でよく使われる

② let O (): 「

③ let O (): 「 Let me in. 「中に入れて」

< help の2パターン >

① help O (): 「

② help A () B: 「 He helped me with the work. 「彼は私の仕事を手伝ってくれた」

2 知覚動詞の語法パターン

< hearタイプ >

① hear O { (): 「
 (): 「
 (): 「

他に
 () 「見る・見える」 / () 「見る」 / () 「見守る」 / () 「感じる」
 () 「聞く」 / () 「気がつく」

← 一部始終
 ← その瞬間のみ

② 受動態にすると () を必要とする! Ving はそのまま!
 I heard the bell ring. → The bell was heard to ring. 「ベルが鳴るのが聞けた」

※ watch は受動態にしない!

③ 上記の動詞のうち、O + Vp.p. をとることができるのは () !

< findタイプ >

① find / catch O (): 「
 I caught the boy stealing fruit. 「私はその少年が果物を盗むところを見つけた」

② find O (): 「
 I found my purse gone. 「私はさいふが無くなっているのに気付いた」

← catch はこの形はない

3 that節に原形を使う動詞 ← 英文法超基礎⑧
 提案・要求・依頼など、「人に何かをさせたい」という意味を持つ動詞の後ろのthat節では、() を用いる! (should + V を使うこともある)

< that節に原形を使うV >

① () 「要求する」 / ② () 「要求する」 / ③ ()
 ④ () 「要求する」 / ⑤ () 「提案する」 「勧める」
 ⑥ () 「提案する」 ☆①~⑥は頻出! "DRIPS" と覚える!
 ⑦ () 「頼む」 / ⑧ () 「命令する」

They suggested (to him) that he see a doctor.
 「彼らは彼に医者に行くよう勧めた」

☆ 「人に何かをさせる」の意味がないときは、原形を使わない!
 Her remarks suggested that she was angry.
 「彼女の口調からすると頭にきているようだ。」